

掃除当番ができない(例)

当番活動は、社会的なスキルを学ぶ大切な活動です。「さぼり」というレッテルを周囲から貼られる前に、当番活動ができる支援を始めましょう。

子どもの行動に対する先生の対応、それに対する子どもの反応の3つを、具体的に書いてみましょう。

子どもの行動と先生の現在の対応

子どもの行動	先生の対応	子どもの行動
掃除分担場所に行かず、一人で遊んでいる。	見かけたら声をかけているが、ぐずぐずしている事が多いので、掃除場所まで連れて行く。	掃除場所に行っても、10分ほどは頑張るが続かない。
注意をしても掃除をしない日が続く。	掃除時間の後、呼び出して注意をし、明日から掃除をするという約束をしている。	素直に注意を聞けず、すねることが多い。約束しても、次の日も掃除をしないことが多い。

要因と要因に応じた対応

要因に対する対応になっていますか。同じような子どもの状態像でも要因が違えば、有効な対応も違います。

要因	要因に応じた対応
活動場所・分担がわからない。	活動場所、分担を一目でわかる表にし、活動前に確認をする。
活動の手順がわからない。	
自分の興味がないことはやらない。	
活動の必要性を感じていない。	
友達と一緒に活動するのが苦手である。	
集中力が持続しない。	教師は10分程度をめに、声をかけるようにする。
本人のペースと周囲のペースが合わない。	
その他 ・教師の注意をひいて、関わりを求めている。 ・	掃除をしている場面を見かけたらすかさず褒める。

その後の様子

- ・自分から当番の場所に行くことができるようになった。
- ・褒めることで意欲的に活動に参加できるようになった。
- ・当番活動に参加はできるようになったが、友達とのトラブルが多い。

必ず、「見直した対応」に対する評価をしましょう。上手くいかなかったところは、要因の捉え方が間違っていなかったか、再検討してみましょう。また、新たな課題は要因の分析から始めましょう。